

第2回 高根沢町学校規模適正化検討委員会 議事録

日 時 令和3年11月16日(火) 午後6時30分～午後8時00分

場 所 高根沢町農村環境改善センター 研修室

出席者

(委 員) 佐藤(栄) 委員長、小堀副委員長、森委員、佐藤(晴) 委員、牧委員、岩崎委員、高久委員、荒関委員、五月女委員、見目委員、檜原委員、高橋委員、保田委員、斎藤委員、鈴木委員、榎本委員、小池委員、加倉井委員、郡司委員、飯山委員、石山委員、加藤(正) 委員

(事務局) 坂本美知夫教育長

福田課長、小林課長補佐、福山管理主事、今平指導主事、山口係長、林主事

1 開会

2 教育長あいさつ

第2回会議にお集まりいただきまして、ありがとうございます。本日の会議では、事務局からの説明をコンパクトにしまして、皆様からのご意見等をいただく時間を増やしたいと思えます。どうぞ、それぞれの立場から忌憚のないご意見をいただければと思えます。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

3 議事要約

議長(副委員長)	それでは第2回の会議に入らせていただきます。最初に、学校規模適正・適正配置等の検討について事務局から説明をお願ひいたします。
事務局(課長補佐)	今回は事務局からの説明を10分程度に短くして、残りの時間を協議の時間とし、基礎資料に不明な点があれば、ご質問をいただくやり方といたします。また、会議の進め方については、当初説明したとおり、基礎資料を順番に説明した上で、説明した部分について審議していただく形を考えていますので、まずは第2章の66ページから第3章100ページまでを説明させていただきます。 また、この検討委員会での協議は、小規模校の存続を含めて統廃合ありきではなく協議していただくものであり、この基礎資料は、「こうしてほしい」とか「これが正しい」といったものではありませんので、誤解のないよう、ご理解願ひします。
事務局	(続けて、基礎資料の第2章「5 各学校の施設の状況」から第3章「学校規模に関する教育的観点の検討」までを事務局から説明)
議長(副委員長)	事務局から説明がありましたが、基礎資料の中で不明な点や確認したい点があれば質問してください。
A委員	84ページについてお聞きします。上高根沢小学校の小規模特認校制度の成果と課題の中で、課題として「今後更に、他の小学校と明確に差別化できるような際立った特色のある学習内容や指導が求められている」とありま

議長 (副委員長)	<p>すが、上高根沢小学校以外の他の小規模校も同じように子どもたちが少なくなっていく中で、他の小規模校においても、特色ある学校を作っていかななくてはならないと思います。その点で、どのように差別化していくのかについて、学校の先生やPTAの方々の考えを聞きたいと思います。</p> <p>今の発言は基礎資料への質問ではなく協議ですので、一旦保留とさせていただきます、基礎資料への質疑の後に協議させてください。そのほか、基礎資料の中で確認したいことがあれば質問をお願いします。</p>
H委員	67 ページの長寿命化改修と大規模改修との違いを教えてください。
事務局 (係長)	<p>現在、建物設備は80年長持ちさせるという考え方に基づいています。半分の40年経ったときに設備、外壁、水回り等を改修して残りの40年を長持ちさせるというのが長寿命化改修です。また、建築から20年経つと劣化していくため、20年の節目で改修を行うのが大規模改修です。そのため、20年ごとに1回目の大規模改修、長寿命化改修、2回目の大規模改修を経て80年経ったら改築を行うサイクルとなります。</p>
H委員	それぞれの予算は大きく違いますか。
事務局 (係長)	高根沢町ではまだ長寿命化改修を実施したことがありませんが、長寿命化改修はかなり予算がかかると考えられます。今後、阿久津中学校での長寿命化改修が予定されています。
事務局 (課長)	補足いたしますと、71 ページのコスト試算表に改築コスト、長寿命化概算工事費、大規模改修概算工事費を載せています。
議長 (副委員長)	<p>それでは、協議に入りますが、本日は、第1回会議での説明事項と、今回説明した説明事項に対して、委員の皆様からご意見をいただきたいと思います。</p> <p>まず、先ほどのA委員からのご発議に対して協議したいと思います。</p>
H委員	<p>11月7日に開催された上高根沢小学校の小規模特認校制度の学校説明会では、参加した保護者から「他の小規模校との違いや上高根沢小学校に入るメリット」について質問がありましたが、その質問に対して事務局できちんと答えられていなかったように思います。現状、上高根沢小学校と他の小規模校との差別化ができていないので、小規模特認校としての差別化のために対策を打たないといけないということだと思います。</p> <p>例えば、宇都宮市の小規模特認校である清原北小学校では、定員に対して応募が多数のため抽選を行っています。応募が多い理由は、宇都宮市としての「魅力ある学校、地域を作りましょう」というコンセプトやビジョンがあって、清原北小学校の独自のカリキュラムがあり、保護者にとって魅力的だからだと思います。例えば高根沢町でも、農村部での豊かな自然を活かしたカリキュラムや学校づくりを小規模特認校のコンセプトにして町外へアピ</p>

	<p>ールしてみるなどの町としての取組があれば、高根沢町の小規模特認校に入りたいと思う方が他市町から移住して人口も増えていくと思います。現状、町としてのコンセプトやビジョンがないために、小規模特認校として差別化ができていないという問題が起きていると思います。また、小規模特認校制度を導入した際に、他の小規模校の児童数も同様に減少していたのに、複式学級を理由に上高根沢小学校だけを小規模特認校にしたことも、差別化できていない原因だと思っています。もう一步踏み込んで考えていかないと、この問題はなくならないと考えます。私は、町のコンセプトやビジョンを考えるためには、検討委員会の委員だけでなく、町の30年40年のビジョンを考える人を呼んで、他の関係者も交えて議論をしたほうがいいと思います。町のコンセプトやビジョンを考えた上で、学校規模適正化を考えていくことがいいと思います。</p>
議長（副委員長）	<p>事務局から何か説明はありますか。</p>
事務局（課長）	<p>学校の小規模化は人口減少と対となる話であり、少子化の現状に対して教育委員会としてどうしていくべきか、どうあるべきかという対応をしていきたいと考えています。ただし、協議する中で、例えば「高根沢町の都市計画にどういったビジョンがあるのか」や「総合戦略の人口増加に対する町のビジョン」を知って議論を充実させたいというご意見があれば、町の担当部署の職員を呼んで、説明することは可能です。</p>
H委員	<p>町のビジョンを知りたいということではなく、もっとアピールしたほうがいいという意見です。特色のある小規模特認校が町のアピールの1つになることで、町外からの移住者が増える確率が増えると考えています。</p>
事務局（課長）	<p>検討委員会の方針を決めていく中で、特色のある小規模特認校をつくるということも、方針案として出てくるのではないかと想定しています。</p>
委員長	<p>「小規模特認校で高根沢町の魅力を出していくこと」と、「小規模校を1校にまとめて更に高根沢町の魅力を出していくこと」という対案は、同じように案の1つだと思います。協議の中で、今後の方針の1つとして「どのような教育方針やカリキュラムを打ち出していくのか」、「学校を起点にどのような町の未来を作り出していくのか」について、検討委員会で検討してもいいと思います。</p>
B委員	<p>今後協議していく中では、委員の方々が、町の地域経営計画や総合戦略などの計画を知ることによって意見を出しやすくなると思いますので、事務局から町の基本計画等を提供していただきたいと思います。</p> <p>また、協議を進める上では、委員が共通の認識を持つ必要があります。町内各学校の実情や清原北小学校などの事例を見に行き知ることや、学校現場や学校施設の老朽化具合などを実際に目で見ることによって、議論が深まり、リアリティのある意見が出てくると思います。</p> <p>また、実際に見に行かないまでも、年度当初に各学校で作成している学校</p>

A委員	<p>の基本資料は、参考に見せていただく必要があると思います。</p> <p>今年、実際に各小・中学校を訪問して現場の生の声を聞き、市街化調整区域にある小規模校について真剣に考えていく必要があると感じました。そのためには、子どもたちや若者が生活できるような市街化調整区域にしていかなければならないと考えます。</p>
議長（副委員長）	<p>市街化調整区域を踏まえて考えることも必要ではありますが、この検討委員会で議論する内容ではないため、協議内容からは外させていただきたいと思います。</p> <p>そのほか意見ございますか。</p>
D委員	<p>各学校の差別化については、それぞれの学校で先生方が工夫されていることと思います。私が参加した東小整備に係る検討委員会での検討の際にも、他市町の学校現場を見させていただきました。清原北小学校の好事例を知ることは、今後の協議の参考になると思います。</p>
H委員	<p>例えば、芳賀町の統廃合の事例などを用意してもらうのもよいと思います。</p>
議長（副委員長）	<p>専門的な立場からの意見を聴くことや、学校現場の実情を見に行くことについて、検討委員会としての方向性を決めたいと思います。</p> <p>まず、町の基本計画や他市町の事例の資料については、事務局に用意してもらって、検討委員会の協議の判断材料としていきたいと思います。</p> <p>学校の視察についてはどうされますか。</p>
B委員	<p>P T A関係者は、平日の昼間の出席が難しい方もいますので、年度当初に配布される学校説明資料等を用いて、校長先生から学校の特色等を説明していただく機会があればよいと思います。</p>
議長（副委員長）	<p>では、次回の会議で、各学校の資料をもとに各学校から説明する機会を設けて検討材料としたいと思います。</p> <p>ほかにご意見はございますか。</p>
G委員	<p>今回の検討委員会での検討が始まったきっかけは、子どもが減少して国が定めた学級数の基準を下回っている現状があるからだ認識しています。ただし、基礎資料のシミュレーションでは子どもが減少すると出ていますが、子どもがいなくなることは絶対にはないと思います。</p> <p>上高根沢小学校が小規模特認校なのであれば、他の小規模校を小規模特認校とすることは可能だと思いますし、小規模校・適正規模校のそれぞれのメリット、デメリットがありますので、各学校でそれぞれ特色を出していければよいと思います。</p> <p>また、一番疑問に思う点は、学区が必要であるのかという点です。町ではスクールバスを運用していますので、学区をなくして、子どもたちが行きた</p>

事務局(係長)	<p>い学校を選んで行けるようにすればよいと思います。私は、統合ありきではなく、小規模校を存続させていくのがよいと思います。</p> <p>また、今後の少子化で一番困ることになるのは維持費や修繕費だと思いますが、基礎資料の維持費や修繕費のシミュレーションが適正であるのか疑問に思いますので、修繕費はどうやって見積りを取っているのか、また、東小学校の光熱費が安い理由について教えてください。</p> <p>68 ページのランニングコストについて、東小学校は平成 30 年度にできたばかりのため、維持修繕費を計上していません。他の学校については過去の実績から計上しています。東小学校の水光熱費については北高根沢中学校との施設併設型のため、他の学校よりも安くなっています。</p> <p>また、改築コストについては、見積りを取ったものではなく、既存施設の建築コストから算出したもので、現時点で試算をしたものです。また、様々な要素でコストは変わってきますので、実際に建て替える際には、物価上昇分やエレベーター設置等により、更に様々な経費がかかります。</p>
G委員	なぜエレベーターを設置するのですか。
事務局(係長)	<p>バリアフリーの観点から、改築時にはエレベーターを設置しなければならないこととなっています。また、インクルーシブ教育等の観点からも、改築時には検討しなければならない要素です。</p>
G委員	<p>試算ができているのであれば、統合に関係なく、減らせられるところを減らしていけばいいと思います。予算だけを考えれば、統合すれば経費がかからないわけですから当然統合した方がいいという考え方になってしまうと思います。</p>
A委員	<p>子どもの数が減れば、その分学校の先生の数も減らされてしまいます。また、複式学級になり、クラス替えもできない状況はデメリットだと思います。</p>
G委員	<p>それらのデメリットは、逆に考えればメリットになると思いますし、大きな学校にもデメリットはあると思います。</p> <p>何のために、コミュニティ・スクール「みんなの学校」の考え方で、学校と地域が協力して学校運営をしていこうとしているのでしょうか。</p> <p>私は、小規模校は小規模特認校にするしかないと思います。また、学区をなくすのがいいと思います。皆さんがどう思うかを聞きたいです。</p>
議長(副委員長)	学区をなくすことについて、何か意見はございますか。
C委員	<p>子どもの数全体のパイが今後小さくなっていく中では、特色ある学校づくりによって学校を残していく場合は、各学校間でパイを奪い合う形になると思います。学区については、コミュニティと学校の関係性が大切です。コミュニティの中での地域とともにある学校という存在を考えると、学区</p>

	<p>の学校とコミュニティは一体であり、学区をなくすことは、コミュニティそのものの崩壊につながると思います。学区をなくすというのは、極めて乱暴な意見だと私は思います。</p> <p>また、「子どもは減るけどいなくなるから、学校に子ども1人でも」というのは極論であろうかと思いますが、学校運営が果たしてそれで成り立つのかという疑問があります。この検討委員会の中で、そうならないような方策を考えていくべきであり、冷静になって、建設的に考えていく必要があると思います。</p>
議長（副委員長）	<p>コミュニティと学校のあり方は、この検討の中でも非常に重要なテーマだと思います。</p>
H委員	<p>小規模校4校を1校に統合した時点で、今まで各学校にあったコミュニティは崩壊するのではないのでしょうか。例えば、新しい学校を町の中央付近に新築したと仮定した場合、町の南側・北側の人達は学校との距離が遠くなるので、関わりは薄くなると思います。コミュニティを守ろうと考えれば、統合はできないのではないのでしょうか。コミュニティについては、先ほど話した「芳賀町の学校統廃合の事例」において、統合した後、コミュニティやPTAが現在どうなっているのか、そういったことも検討の参考事例になると思います。私自身は、今後も引き続きコミュニティ・スクール「みんなの学校」やボランティアなどを通して学校に関わっていきたいと思っていますが、統合して学校が遠くなると協力することが難しくなるかもしれません。</p>
議長（副委員長）	<p>統合によりコミュニティがなくなってしまうのではないかという意見がありました。一方、統合に伴って新たなコミュニティが形成されることも考えられると思います。</p>
H委員	<p>そういった面もありますが、コミュニティは、小さいからこそ、地域住民の距離が近いからこそ成り立つと思います。統合してコミュニティの範囲が広がってしまうと、地域住民の関係性が希薄になってしまうのではないかと思います。</p>
C委員	<p>コミュニティを無視した統合することはあり得ないと思います。分断されて離れたコミュニティの学校を統合することは考えられないので、当然、より近くの隣接したコミュニティを統合して、分断が起きない形での統合が図れるように、学校の統合を考えることとなります。そのため、既存のコミュニティの崩壊ではなく、新たなコミュニティを形成していくという考え方も必要だと思います。</p>
議長（副委員長）	<p>コミュニティと学校のあり方については、すぐに結論が出るものではないと思いますので、検討委員会で時間をかけて協議していく必要があると思います。</p>

G委員	<p>私は、学校をなくす方向ではなく、学区をなくして子どもたちが自由に行きたい学校を選べるようにすればよいと思います。コミュニティというものは新たに作っていくものだと思っていますので、学区を越えた子どもたち同士の繋がりを中心としたコミュニティ形成をすることもできると思います。子どもたちが選択して、親と一緒に考えていることが大切ではないでしょうか。例えば、極論ですが、子どもたちが1年ずついろいろな学校を回るぐらいのことがあってもいいのではないのでしょうか。友達がたくさんできていいと思います。</p>
B委員	<p>これからの時代における学校のあり方について考えると、ICTを活用したオンラインでの学校を跨いだ学習なども可能になってくるのではないかと考えています。ただし、児童生徒数が減少するのであれば、学校の数も縮小せざるを得ないと思いますので、大規模改修や改築等のタイミングで将来を見越した学校規模の検討を進めていかなければいけないと思います。</p> <p>学校運営は地域と切り離せない関係であって、地域住民の様々な思いや地域性を考慮しなければならないことから、コミュニティ・スクール「みんなの学校」を通じて地域と学校の連携をどのように形成していくのが重要であり、より多くの意見を出していくことが大切だと思います。</p> <p>これからの協議の方法についてですが、メリット・デメリット等の検討の際に、大人数だと意見がまとまらないこともありますので、少人数に分けたグループワーク形式で意見を出し合うことも方法の1つだと思います。少人数であれば、意見を出しやすくなり、共通認識を図りやすくなります。</p>
議長(副委員長)	<p>少人数でのグループワークの手法は意見を出しやすいので、今後、検討委員会で取り組んでみたいと思います。</p> <p>本日は、様々な意見が飛び交っていますが、まずは様々な意見を出し合った上で、段階的に方向性を絞っていこうと思いますので、遠慮なさらずに意見を出してください。</p>
H委員	<p>委員間で発言に温度差があると感じていますが、児童生徒数の減少が議論の入口であるので、いたし方ないと思っています。子どもが少なくなることでだけでなく、例えば、「町の教育ビジョンをこうしましょう」などの大きなテーマがあれば皆が発言できると思います。『「町の統廃合などの学校規模の検討」と「町の教育ビジョン」とを一緒に考えていくようなやり方』であれば委員全員が意見を出しやすいのではないのでしょうか。</p>
E委員	<p>私は、小規模校を実際に見たことがないですし、確かに温度差を感じています。</p> <p>確認したいのですが、小規模特認校制度を始めるに当たっては、何か明確な基準などはあったのでしょうか。</p>
事務局(管理主事)	<p>複式学級の基準は、2学年の合計人数が16人以下の場合です。上高根沢小学校では、平成22年度に複式学級を生じました。複式学級では1人の先</p>

E 委員	<p>生が2つの学年を教えるため、学校、先生、子どもたちにとって非常に負担が大きいものとなります。上高根沢小学校では、複式学級を解消することを一番大きな目的として、平成23年度から小規模特認校制度を開始しました。</p> <p>私は、小規模校や小規模特認校の状況は経験がないので、「発言しない」のではなく「発言できない」という思いです。</p>
議長 (副委員長)	<p>貴重なご意見ありがとうございます。委員間での温度差を越えて議論を進めなければならないという共通認識をもって、次回以降の会議に臨んでいきたいと思います。</p> <p>ほかに意見ございますか。</p>
I 委員	<p>先日、コロナ禍の中で学校の運動会がありましたが、規模の大きな学校では出席保護者の人数制限など、自分のところの小規模校よりも制限があったと聞いて、大きな学校は大変な面もあると感じました。そうなる学校の適正人数とは何だろうと感じたりもしました。</p> <p>また、中学校ごとに生徒の性格傾向や特色もあると聞きますので、そういった点もこの会議の中で共有していければと思いました。</p>
議長 (副委員長)	<p>その点については中学校の校長から見てどうでしょうか。</p>
S 委員	<p>各学校ではそれぞれ自分の学校の子どもたちをいい子だと思って指導をしていますし、学校ごとの特色を出そうと努力しているところです。しかし、今の子どもたちが5年10年経ったときにどんな生活を送っているのかを考えると、将来を考えた上で、適正規模について考えていく必要があると思っています。高根沢町の子どもたちは学力も高く、世の中で活躍する生徒が多いと思います。コロナ禍での不登校等に配慮しながら教育を推進したいと思います。</p>
T 委員	<p>小規模の中学校の生徒は、のんびりしているのかなと感じます。コロナ禍の中でも、人と接する機会を増やしてあげたいと思っています。現状で生じている不登校等の原因がコロナ禍であるのか何であるのかはわかりません。</p>
議長 (副委員長)	<p>最後に、委員長からお願いします。</p>
委員長	<p>学校の特色についてですが、各学校では、先ほどの小規模特認校を含め、それぞれ特色のある教育方針を立てています。学校規模の適正化を考える上で、理想を言えば全校を残すことは可能ですが、そのためには「介護保険を止めたほうがいいほどの予算規模になる相当な維持費」がかかります。また、不要な施設を減らしていくという意見については、町の方針として予算を際限なく投入することも可能だと思いますが、そのためにプラス10万円分ぐらい町民税が増税になるかもしれません。</p> <p>理想に突き進むことはとてもよいことですが、ある程度の限度があるこ</p>

	<p>とを、ぜひご承知おきいただきたいと思います。</p> <p>また、小規模特認校以外の他の小規模校にける教育の差別化などの課題についての話がありましたが、この基礎資料は現状の小規模特認校の話であり、他の小規模校については今後検討委員会で協議していけばよいと思います。</p> <p>この検討委員会では、町長から「学校の適正規模、適正配置及び通学区域等に関する事」について諮問を受けていますので、それ以外を答えることはできません。諮問事項以外の「教育のビジョン等」については、付帯事項として答申書に載せることはできますが、本来は別の委員による委員会で協議していただくべきものです。この検討委員会では、「教育のビジョン等」について、別の委員会に繋げていけるように協議していくことがよいと思います。</p>
議長（副委員長）	<p>次回については、事務局から基礎資料の残りの部分を説明した上で、また忌憚のないご意見をいただけたらと思います。事務局から連絡事項をお願いします。</p>
事務局（課長）	<p>（次回日程等について連絡）</p>
D委員	<p>1つ要望があります。今回、事務局からの説明を短くして協議を進められたことはよかったですと思いますが、資料の理解が難しいので、委員が理解できるように、もう少し丁寧に説明する時間を確保してもらいたいと思います。</p>
議長（副委員長）	<p>説明については事務局で対応願います。以上をもちまして、第2回会議を閉会します。</p>